

## 海外研修（資料調査）報告書

### (a)派遣先での日程(2014/03/3-9)

イリノイ州立大学シカゴ校 リチャード・デイレール図書館：2014/3/4-5  
シカゴ大学図書館 スペシャルコレクションリサーチセンター：2014/3/6-7  
シカゴ公共図書館 スペシャルコレクション読書室：2014/3/8  
フィールド博物館：2014/03/9

### (b)研究成果

#### (b)-1.調査の概略

上記のアーカイブスで関連資料を収集した。調査の方法は、文献収集・記録およびライブラリアンからの情報収集である。調査内容は、1933年のシカゴ博覧会開催からロバート・リプリーの死後1950年頃までのコレクションを渉猟し、展示されていた文化人類学的資料がいかに扱われてきたのかを調査した。具体的には、シカゴ大学図書館 (A Century of Progress: The 1933-1934 World's Fair) やイリノイ州立大学 (*Official Guide Book of the World's Fair of 1933.*) などの資料に当たった。加えてフィールド博物館では、当該博覧会の前身となる1893年のシカゴ博覧会についての展覧会にも足を運んだ。

#### (b)-2. 調査結果

大小計15程度のコレクションを渉猟することができた。次のような結果を得た。

- ・博覧会全体の持つ「未来・進歩」というイデオロギー面について立証可能な基礎資料
- ・人種展示など人類学パビリオンについての基礎資料
- ・リプリーコレクションのパビリオンについての基礎資料
- ・関係する大学およびシカゴ市の博覧会議事録など文書資料概要の把握
- ・ライブラリアンとの関係構築 (シカゴ公立図書館 Sarah Zimmerman 氏ら)

#### (b)-3. 今後の研究計画

今回の調査では、収集に加えて資料の所在や量を概略的に把握できた。次回以降、今回訪れたシカゴの図書館群、さらにフロリダ州オーランドのリプリー社アーカイブスでの調査が必要であると考えている。研究トピックの十分な論証には、次のような点を明らかにする必要がある。

- ・リプリー氏による文化人類学の理解・言及 (リプリー社本社アーカイブス)
- ・文化人類学研究からのリプリーへの反応 (概略を把握した議事録資料の本調査)
- ・シカゴ市政府、財界の関連する動向 (同上)
- ・当時の博覧会に対する人々の反応 (一部の資料獲得。次回の資料所在を検討中)

### (c)研究成果の発表予定

以下のような学会報告、学会誌での発表を計画している。例：*Journal of American History*、*Review of International American Studies*、*American Quarterly*、*American Anthropologist*、*American Review* (以上英文雑誌)、『アメリカ太平洋研究』、『博物館学雑誌』、『文化資源学』(邦文雑誌)、International American Studies Association、Organization of American Historian、American Anthropologist Association (研究報告) などである。